

概数の意義や概数を活用するよさを考えるための指導 ～日常的なテーマを用いた対話的な学びの事例～			
学部・教科	高等部・数学科	事例コード	2404
学習グループの実態	<ul style="list-style-type: none"> 本授業は2クラス合同で実施しており、生徒5名が在籍している。 テーマに沿って自分の経験を振り返り発表することができる生徒が多い。 四捨五入の仕方については理解しているが、日常生活に生かすことは難しい生徒が多い。 		
単元(題材)名	『「およその数の使い方」～身近に使われている概数を調べる～』		
学習指導要領の内容	数学科／高等部1段階 A数と計算 ウ 概数に関わる数学的活動 (ア)㉗㉘㉙、(イ)㉚		
単元(題材)の目標	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
	○概数が用いられる場面について知る。【知】 ○四捨五入について知る。【知】 ○目的に応じて四則演算の結果の見積りをする。【知】	○日常の事象における場面に着目し、目的に合った数の処理の仕方をもとに、それを日常生活に生かすことができる。【思】	○身近な場面で使われている概数に対して興味をもって調べ、概数で表すことの便利さを感じながら学ぶことができる。【学】
単元(題材)の計画	総時数9時間 1 新聞記事から、概数を表す言葉を抜き出す (1時間) 2 概数で表してよい場面、正確な数で表した方がよい場面 (2時間) 3 概数で表す方法(6時間)		
指導の実際	<ul style="list-style-type: none"> 1について、新聞記事から、「だいたい、約、～くらい、～超」など、およその数を表す言葉を調べることができた。 2について、人によって感じ方が異なり、だいたいの値で考える場面が必ずしも一致しないことに気づくことができた。 予算書と決算書、犯人の身長、世界の人口、料理の大きさ1、熱を出した時の体温、バスの発車時刻など、様々なテーマごとに考えることで、およその数を使った方がよい場面について話し合い、①正確に分からない、②だいたい分かればよい、③およその数の方が伝わりやすいなど、自分の気づきを言葉にして発表することができた。 野球選手の契約年俸1014億円との報道に関して、およそ1000億円としてよいか疑問をもち、自分の言葉で説明することができた。 3について、四捨五入して十の位までの概数にする場面で、整数値で考えた後、「134.1は？」と問いかけると130と答えた。前単元「小数」の学習が生かされ、134.9までの数なら130になると考えることができた。 買い物の支払い場面を考えることで、どの程度の概数にするのが適切かを考えることができた。 多く見積もる、少なく見積もる、だいたいで見積もる、の違いを理解することが難しかった。 		

